

中学生のメッセージ2023

第45回 少年の主張 三重県大会



デザイン画 最優秀賞：「まばゆい輝き ～自分を信じて一歩ずつ～」
桑名市立多度中学校 2年 石川 美咲さん・坂本 綾音さん・園田 志歩さん・渡辺 菜摘さん

 **公益財団法人三重こどもわかもの育成財団**
桑名地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

はじめに

中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、昭和54年の国際児童年を契機として始まり、中学生の皆さんが日常生活の中で日頃考え、感じていることなどを広く社会に発信する場として回を重ねてまいりました。

45回目となった本年度は、県内59の中学校から8,191点にのぼる作文の応募がありました。このようにたくさんの中学生の皆さんが関心を持ち、参加くださったことを主催者として大変嬉しく思います。

これもひとえに各中学校や県内青少年育成市町民会議等の皆様の多大なご協力の賜物と感謝申し上げます。

今年度の三重県大会は、令和5年8月26日、いなべ市の北勢市民会館での開催となりました。毎回のことではありますが、寄せられた発表の一つひとつにはそれぞれの考えや思いが込められていて、その表現も一つずつ異なります。一人でも多くの方に発表の機会を得ていただきたいところですが、今回は代表として14名の方々に発表を行っていただきました。

発表者の皆さんは発表することで自分自身の思いと改めて向き合ったり、新たな発見をしたりしながら自信を深められるなど、今後につながる機会になったのではないかと感じています。

一方、私たち大人は、中学生の皆さんのみずみずしい感性や真っ直ぐな気持ちを受け止めることで、家庭や地域社会で子どもを支え、応援することの大切さをより強く感じることであります。

また、司会、受付など大会全体の運営を主体となって行っていた桑員地区の中学生の明るい笑顔と優しい気持ちは、来場された皆さまに届き、たくさんの感謝の声をいただきましたし、同じく桑員地区の中学生によるよさこい演舞、吹奏楽演奏の実践発表には大きな拍手が寄せられました。

私たち主催者もこの大会を通じ、若い皆さんの思いや考えなどを社会に向けて広く伝えることの大切さを改めて確認することができました。今後とも、意義深い取組として継続できるよう努力を重ねていきたいと考えています。

本報告集は、県大会受賞者14名の主張と全国大会内閣総理大臣賞受賞者の主張を収録したものです。ご覧いただいた皆さまには、中学生の思いや考えに一層の関心を持っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、実行委員会でご尽力いただきました桑員地区青少年育成市町民会議を始め、多くの皆さまのご支援・ご協力に改めて厚くお礼を申し上げます。

今後も、「中学生のメッセージ」が、中学生の皆さんにとって輝ける思い出となるよう、地域の皆さまと共によりよい取組にしていきたいと思います。

引き続き、皆さまのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年1月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 中山 恵里子

中学生のメッセージ 2023

(令和5年8月26日 北勢市民会館)



発表者と審査委員の皆さん



運営協力していただいた中学生の皆さん

目 次

はじめに

◆大会発表作品

最優秀賞

祖父はつまらない人? いなべ市立藤原中学校 2年 高田 鈴奈 …… 1

優秀賞

知ることの大切さ 津市立南が丘中学校 2年 末廣 一護 …… 3

特別 多気町立勢和中学校 3年 馬場 大翔 …… 5

つながり ～ヘッドネーション～ 木曽岬町立木曽岬中学校 3年 山本なごみ …… 7

優良賞

もっと地球の未来を考えよう 津市立美杉中学校 3年 井爪 奏 …… 9

性別による格差のない社会に 伊賀市立緑ヶ丘中学校 3年 小澤 咲月 …… 11

いじめについて 鈴鹿市立大木中学校 1年 加藤 涼 …… 13

「おはよう」がかえってくる 伊賀市立霊峰中学校 3年 佐々木 凜 …… 15

それでも私は挑戦し続けたい 紀宝町立矢渕中学校 3年 高須 咲南 …… 17

男女差別について 四日市市立西朝明中学校 3年 辻 明日薫 …… 19

私たちにしかできないこと 朝日町立朝日中学校 3年 中村 梨乃 …… 21

美しい私たちの日本語 尾鷲市立輪内中学校 3年 藤井 春奈 …… 23

わたしの考える防災 暁中学校 3年 村山 絢桜 …… 25

失われていく子どもたちの大切な遊び場 暁中学校 3年 山添 愛奈 …… 27

◆審査委員の講評 …… 29

◆大会概要

1 応募の状況 …… 35

2 地域優秀賞受賞者一覧 …… 37

3 学校奨励賞受賞校一覧 …… 39

4 デザイン画受賞者一覧 …… 40

◆大会メモリアル …… 41

◆中学生への応援メッセージ …… 45

◆協賛企業・団体紹介 …… 47

◆参考資料

1 中学生のメッセージ2023 (第45回少年の主張三重県大会) 作文募集要項 …… 49

2 令和5年度内閣総理大臣賞の紹介 (第45回少年の主張全国大会 ～ わたしの主張2023 ～) …… 53

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。



最優秀賞 祖父はつまらない人？

いなべ市立藤原中学校 2年

高田 鈴奈

私には、今年七十七歳になる祖父がいます。私の家から歩いて三分ぐらいのところに祖母と二人で暮らしています。両親は仕事で帰りが遅い日が多いため、私と妹は祖父の家で毎日夕食を食べさせてもらっています。祖父は元高校教師で、今は、畑仕事をしないときは本を読んで過ごしていることが多いです。そんな祖父ですが、数年前から耳の聞こえが悪くなっていきました。今は補聴器をつけていますが、それでも周りが騒がしかったり、早口で話されたりすると聞き取れず、会話に入れないことがあるそうです。

ある日の夕食のときです。私、妹、祖母の三人での会話が盛り上がり、つい早口で話してしまいました。すると、

「なあ、今、何の話とんのや。」

と祖父に聞かれました。私は話を遮ぎられたような気がして、つい

「じいじには関係ない。」

と冷たく言ってしまいました。そんなことが今までに何度もありました。その度に、自宅に帰ってから少し言い過ぎたかと反省するのですが、別の日にまた同じように冷たく言うのです。

こんなことを繰り返したくないと思い、祖父の話を聞いてみることにしました。すると、祖父の口から出てくる話は昔話ばかり…。ちっともおもしろくありません。私が話し役でも、聞き役でも、祖父と心穏やかに会話を楽しむことはできないのだと感じて、私はだんだんと祖父と距離を取るようになっていきました。

そんなある日、私は母に連れられ、日本国憲法について学ぶ講演会に祖父もいっしょに行きました。三人で二時間ぐらい資料映像を観たり、講演を聞いたりしました。帰りの車の中では祖父と母が、これからの憲法の在り方や、どうしたら平和な世界が創れるのかということを話し合っていました。そのときの祖父はとてもじょう舌でした。私はとても驚きました。つまらない昔話しかなくて、会話をしようとしてももうまくいかない人＝祖父であった私の考えが、現代や未来の話もして楽しそうに話せる人＝祖父と、その印象が、がらっと変わりました。

さらに、憲法を使ってLGBTQの人達がもっと生きやすい社会が創れるのではないか、などと新しい考えを持っていました。今までいかに私が祖父のことを理解していなかったのか、いえ、理解しようとしていなかったのかを思い知りました。年をとっているし、耳も遠い。それだけの理由で、私が勝手に祖父を「つまらない人」と決めつけていたと痛感しました。

★ 部活動や学校外活動	バレーボール部
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	料理を作ること・食べること
★ 将来の夢	外国に関わる仕事に就くこと

例えば私がゆっくりと話したり、昔話にならないような話題を振ったりすれば、祖父も私も楽しく会話ができたはずなのです。そのことに気付いてからは、祖父にたくさん話しかけるようにしました。しばらく経った頃、祖父が「最近すーちゃん、優しなったなあ。」

と祖母に話している声が聞こえてきました。今まで距離を取ろうとしていたことも、会話の中で私がいらいらしていたことも全部、祖父は分かっていたのだとそのとき気付きました。私は、祖父への申し訳ない気持ちで胸がいっぱいになり、祖父ともっともっと、いろいろなことを話していこう、祖父と毎日を楽しく過ごしていこうと心に決めました。

このような自分自身の経験から、私は高齢者と若者がお互いを理解し合える社会について考えるようになりました。SNSの中では、「ジジイ」「ババア」「老害」などという、高齢者に対する心ない言葉が飛びかっています。一方で、「今の若者は…」「俺が若かった頃は…」と言う高齢者の方もいます。それではお互いを理解し合うことなどできません。かつての私と祖父のように距離が離れていくだけです。そうではなく、自分から歩み寄って話しかけ、自分にはない考えを知ろうとすることが大切だと思うのです。

私は祖父と話すようになって、自分の考えに深みが増したように感じています。祖父という人と過ごせる時間は永遠ではありません。その時間の中で、たくさん楽しい話をし、祖父の考えを、祖父という人を知るために、私は今晚も祖父に話しかけます。





優秀賞 知ることの大切さ

津市立南が丘中学校 2年

末廣 一護

みなさん、「ヘルプマーク」を知っていますか。まだまだ知らない人の方が多いと思います。もちろん、僕も十歳まで知りませんでした。たまに、カバンにつけている人を見かけましたが、特に気にすることもなく過ごしていました。

ところが、僕は十歳の時に一型糖尿病という小児慢性特定疾患になりました。大人の二型の糖尿病とは違い、一型は小児の発症が多いのです。また、インスリンがほとんど出ないため、毎日数回のインスリン注射がないと生きていくことができません。インスリン注射で血糖値をコントロールしているので、多く入れ過ぎると低血糖をおこします。しんどくなり立っていられなくなったり、頭痛やふらつきをおこしたりするので、ブドウ糖を摂取しないといけなくなります。酷い低血糖をおこすと意識を失い周りの人に救急車を呼んでももらわないといけません。普段の生活の中では他の人と変わりなく何でも出来るので、見た目では全く分かりません。そんな時知ったのがこの「ヘルプマーク」です。ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたマークの事です。赤色は危険や困難を抱えている、「十♡」は助けを必要としていることを表しています。ヘルプマークは、二〇一二年に東京都で配布が始まったのが最初です。僕もつけたいけど、ためらいがあります。なぜか。それは利用時の周囲の反応が気になるからです。つける事によって嫌がらせを受けたり、心無い言葉を言われたりという事をSNSで見かけました。また、問題点もいくつかあります。簡単に手に入るので悪用されやすく、転売されておしゃれ感覚でつける人がいるそうです。腹が立つけどそんな人も知る事を知ってもらって、本当に助けが必要な人がサポートを受けられるようになってほしいと強く思います。また、認知度が低く、つけていても席はゆずってもらえなかったという意見も多いです。見た目は普通で年齢的にも若いと、お年寄りを目の前に体がしんどくなって優先席に座りたいのに、ヘルプマークをつけていても電車で不審な目で見られてしまいづらい経験をしている人達も多くいるそうです。そういう人達を無くしていく為には認知度を上げていくしかありません。当事者も非当事者も認識と理解を持たなければいけないのです。僕は非当事者から当事者になった為理解して広めようと思いましたが、そうでなければ当事者の人から発信してもらわないと中々認識するのは難しいと思います。

どうやって広めていくか。僕がヘルプマークをつける事で役に立てるだろうか。ためらいもあるし、

★ 部活動や学校外活動 PC 部・軟式野球

★ 好きな科目 社会

★ 好きなことや好きなもの 小説を読むこと

★ 将来の夢 医師

自分に持病がある事も隠したい気持ちもある。しかし、同じ病を持った人や違う病で苦しんでいる人と共に安心して生活できる世の中にしていきたい。しいては自分の為にもなるんじゃないか。そう思いヘルプマークをつけることに決めました。これからは、自分もつけるし、このマークを見て困っている人がいたら絶対に声をかけます。お願いします。みなさんも、「ヘルプマーク」をつけている人が困っていたら迷わず恥ずかしがらずに声をかけてあげてください。また、ヘルプマークを悪用しないでください。僕たちにとってこのマークは、お守りなのです。そして思いやりの心を忘れず、お互いに支え合っていきましょう。

「歩く広告塔」に僕はなる!!





優秀賞 特別

多気町立勢和中学校 3年

馬場 大翔

特別視されるというのはとても気持ち良いことなのだろう。他の人とは違う目で見られ、他の人とは違う特別な待遇を受ける。とても名誉的なものであり、ものすごい優越感に浸れるのだろう。

…と私は考えていた。もちろん、名誉的な特別視もあるだろう。しかし、全てが名誉的であるというのは全くの間違いである。

私の兄には重度の障がいがある。身体を思うように動かすことができず、コミュニケーションをとることが難しい。しかし、私にとっては生まれてからずっと一緒に家族として過ごして来た、当たり前前の存在だ。だから、私は兄に対しては、介助以外では特別な行動はとらず、もう一人の兄と同じように接している。

ある日、家族の中で兄について話すことがあった。私たちのような障がい者の家族のことである。「大変ではないか。」

と尋ねられたことはないかということだった。確かに兄は自分で動くことができず、私たちの支援が必要である。もちろん、大変なことは多い。しかし、決して自分たちのことを不憫に思ったことはない。兄は大事な家族なのだ。

このような障がい者を哀れむような考えを持ってしまう人は、障がいがある人を「障害」になると無意識に考えており、腫物のように見ているのではないだろうか。だから、障がいがある人、障がいがある人の家族は「特別である」と考えてしまうのだろう。

非常に失礼な話である。もし、障がいがある人、その家族を心配しているからこそその考えだとしても、当事者にとってその心配は侮辱でしかない。

昔のテレビドラマに、
「同情するなら金をくれ。」

というセリフがある。有名なセリフなので知っている人も多いだろう。このドラマの主人公はホームレスの少女である。少女の周辺の人たちが彼女の貧しさを哀れみ、同情すると、彼女はこのセリフを吐き捨てた。

このセリフが物語るように、同情とは残酷なものである。同情は人を勇気づけるようなものではない。それどころか必要以上に人を絶望に陥れるかも知れない。悪意のない悪行である。

「同情するなら金をくれ。」というセリフは今回の内容に通ずるものがある。

障がい者、その家族を哀れみ、同情するぐらいなら一度手伝ってみてほしい。そして、大変な

★ 部活動や学校外活動 吹奏楽部

★ 好きな科目 音楽

★ 好きなことや好きなもの 音楽鑑賞

★ 将来の夢 探し中

だけではないということを知ってほしい。介助は大変なことはもちろん多いが、楽しいことも多い。それが日常なのである。特別でもなんでもない。

兄のことを世間に話したら、私たちも家族含め特別に思われ、少し注目を浴びるだろう。しかし、実際に世間からの注目のほとんどは兄の障がいを哀れに思うものになるだろう。その哀れみの目は私たちにとって侮辱そのものだ。本当のことを何も知らないのに可哀想と思われては怒りすら覚える。

「兄は『個性が強い人』である。」

と考えてみれば可哀想などの感情は湧かないのではないだろうか。そう、障がいとは「個性」なのだ。どうか特別だとは思わず、普通の家庭であると思ってほしい。





優秀賞

つながり ～ヘアドネーション～

木曽岬町立木曽岬中学校 3年

山本 なごみ

みなさんは「ヘアドネーション」という言葉を知っていますか。「ヘアドネーション」とは、がんや脱毛症などで髪を失ってしまい、髪に悩みを抱えている子供たちのために寄付された髪で医療用のウィッグを作り、無償で提供する活動のことをいいます。

私が「ヘアドネーション」を知ったのは、小学校四年生の夏休み、家族で町の図書館に行った時のことでした。オススメ本でピックアップされていた「ヘアドネーション」の本を見つけ出しました。「ヘアドネーション」では一つのウィッグを作るには二十人から三十人ほどの髪が必要ということを知り驚きました。それまで私は一人の寄付した髪で一つのウィッグができると思っていました。それから本を読み進めていくうちにがんなどで髪がなくなってしまった人の辛さや「ヘアドネーション」をしようと頑張っている人がいて、「私も病気でたたかっている人の役に立ちたい」「自分にできることをしたい」と思いました。そしてその夏休み。私は初のヘアドネーションをしました。髪を三十一センチメートルの長さで束ねて切り、腰の長さまであった髪は肩くらいの長さになりました。そのとき切ってくれた美容師さんは「まだ小学生なのに誰かのために頑張っていてえらいね。」とほめてくれました。ロングヘアが好きだったので短く切って少しさみしかったけれど、美容師さんが声をかけてくれて心が温まりました。

それから四年たった今、最近ではテレビでもさらにネットニュースでも小さな子供から大人、男女関係なく何年も何年も頑張っている髪を伸ばし、誰かの役に立とうと「ヘアドネーション」をしている方々を見かけます。そんなたくさんの人の思いがあるからこそ、より多くのウィッグが作れ、少しでも多くの髪に悩みを抱えている子供たちの気持ちをやわらげてあげられると思います。これからもたくさんの人たちに「ヘアドネーション」を知ってもらい、たくさんの人たち一人ひとりが協力して一人でも多くの病気の子たちの気持ちを救えるような世の中にしていきたいと思います。

私は今年の二月、二回目の「ヘアドネーション」をしました。小学生のころと一緒に腰くらいまであった髪が肩よりも短くなりました。一つ一つ束ねた髪の毛一本を美容師さんが私に切らせてくださいました。自分で切ってみることで髪の重みを感じました。二日後、学校に行きました。そして朝休みにまわりの席の子たちと話していました。すると、前の席の男の子が髪を切ったことに気づき、「『ヘアドネーション』したの?」と聞かれました。私は「そうだよー。」と普通に答えましたが、心の中ではとても嬉しかったです。四年前まではあまり知られていなかった「ヘアドネーション」がクラスの男の子が知っているくらいになっていたのです。前の席の子は知っていましたが、隣の席

- | | |
|---------------|-----------------|
| ★ 部活動や学校外活動 | バレーボール部 |
| ★ 好きな科目 | 保健体育 |
| ★ 好きなことや好きなもの | 音楽を聴くこと・友達と遊ぶこと |
| ★ 将来の夢 | 誰かの役に立つ仕事をする |

の子は知らなかったようで「『ヘッドネーション』って何？」と聞かれました。私は自分の言葉で伝えました。すると、「そうなんだね。知らなかった。」と答えてくれました。こうしてまた、「ヘッドネーション」について知ってくれる人が増えました。自分がすることでもっと知ってくれる人が増えて、協力してくれる人が増えるといいなと思います。これからも何か人のためにできることをやっていきたいです。今の私の夢は医療関係の仕事につくことです。そして多くの人の心も体も救えるようになりたいです。





優良賞

もっと地球の未来を考えよう

津市立美杉中学校 3年

井爪 奏

皆さんは太陽光発電について調べたことがあるだろうか。私は今回地域で起こったことをきっかけに調べてみようと思った。

太陽光発電って何だろう。太陽光発電は太陽の光を利用する発電方法だ。発電するとき二酸化炭素を出さないため再生可能エネルギーとして注目されており導入が進められている。皆さんも見かけたり話を聞いたりすることも少なくないはずだ。

しかし太陽光発電は問題も抱えている。廃棄の問題だ。太陽光発電に使うソーラーパネルは鉛やセレン、カドミウムなどの有害物質を含んでいる。そのため廃棄には費用がかかるうえリサイクルも難しく現在はほとんどが埋め立てられている。パネルの寿命は二十年から三十年とされており二〇三八年には廃棄量が八十万tに到達するという環境省のグラフもある。廃棄料が高いため使われなくなったパネルが放置されたり、不法投棄されたりすることも予想される。そんなことが起こればパネルに含まれる有害物質が流れ出て環境へ悪影響を及ぼす。太陽光発電は問題を抱えながらも導入が進められているのだ。そして太陽光発電の話はついに私が住む集落にもやってきた。

私の住んでいる美杉地域は周りを山々に囲まれた自然豊かな地域だ。私が生まれたのはこの地域ではないが小学校に入学するときにこの地域に引っ越して来た。近年美杉町でも太陽光発電の施設をよく見るようになった。私の家族は自然豊かなところに住みたいということで今住んでいる地域に引っ越した。そのため田んぼなどに太陽光発電ができることについては景観が悪くなることや環境への懸念からよく思っていなかった。しかし高齢者が多くなり管理できなくなった土地が多いのだろう。私の集落にも耕さなくなった田んぼがある。とうとう太陽光発電建設の話がやってきたのだ。農業をやらなくなった土地の管理が大変であるため太陽光発電の業者に売ろうというのだ。しかし冒頭にも述べたような問題やきれいな景観を壊すということもある。集落の中でも反対の声が上がった。しかし農業をやるにしても獣害対策をしっかりしないといけなかったことやそもそも人が少ないため簡単に農業ができるわけではない。話し合いが行われ草刈りなど土地の管理をみんなでするというので太陽光発電の施設は建設されないことになった。

私の住む集落ではみんなで協力して土地を管理するということが話し合いの中で決まり止めることができた。しかし他の話を聞くと地域で話し合うことができず個人で土地を購入したという話も聞く。今回の件を通して太陽光発電を建設するというのは地域全体で話し合わなければいけない

★ 部活動や学校外活動	生徒会
★ 好きな科目	理科
★ 好きなことや好きなもの	読書・ピアノを弾くこと
★ 将来の夢	まだ、決まってません。

いことだと思った。なぜなら今、太陽光発電を建設することは将来の地球環境を壊したり今の子供たちに負担を残したりすることになるからだ。冒頭にも述べたように二〇三八年には廃棄量が八十万tに到達するとされている。将来リサイクルの方法が確立されなければ今の子供たちに負担となることは目に見える事実だろう。太陽光発電は一つのビジネスとして成り立っている。私は将来の地球、未来の私たちのことを考えずただ利益を上げるために太陽光発電を建設しているのならば憤りを感じる。

私は太陽光発電のような将来自然環境を悪くしたり今の子供たちに負担となったりすることをやめるべきだと考える。将来環境を悪くしたり今の子供たちに負担となったりすることは太陽光発電だけではないだろう。すべてに共通して言えることは一人一人が地球の将来や子供たちの未来を考えることが必要だということだ。そのために目先の利益だけを考えるのではなく自分で本当に必要なものは何なのかを考え、興味を持って調べることが大切ではないだろうか。これから私も身近にある様々な課題について興味を持ち自分で調べ考えていきたいと改めて思った。また世の中にある問題を話し合えるような社会を作っていくことも大事である。皆さんも身近なことから興味を持って調べ地球の未来について考え話し合っていこうではありませんか。





優良賞

性別による格差のない社会に

伊賀市立緑ヶ丘中学校 3年

小澤 咲月

私の父はサラリーマンとして働いてくれています。母も父より時間は短いですが、外に出て私たちのために働いてくれています。しかし、母一人が家事を行っていて、私の父はほとんど家事をしません。それに、今まで家事をやってきたことがなく、家事の大変さもあまり分かっていないようです。

なので、母は父にではなく、私や妹に「お手伝いして」と声をかけます。私たちが勉強をしていて、父がスマホを触ってのんびりしていてもです。私も家族なのでもちろん手伝わないといけないと思います。けれど、私は「なんで私や妹ばかりなの。父がもっと家事をしてくれたらいいのに。」と嫌な気持ちになってしまいます。

また、母はよく「家事を分担していこう。」と言います。それに対して、父は「ちょっとは手伝っているやん。」と答えます。私はそれを聞くと、すごくモヤッとした気持ちになります。それは私が「手伝う」のではなく、父にもっと率先して家事をしてもらいたいと思っているからだと感じます。「手伝う」というと、どこか他人事な気がします。最近は父みたいな人は少なくて、家事や育児に積極的な男性が増えてきていますが、それでも「手伝う」という感覚で、自分も主体だと思っている人は少ないのではないのでしょうか。また、男性だけが「イクメン」と呼ばれるのも何か違和感を感じます。

私が生まれた、二〇〇八年当時の男性の育休取得率は一、二三パーセントで、二〇二一年では、一四、〇パーセントと近年で大幅に伸びています。これは、企業の後押しや行政の政策によるものが大きいですが、まだまだ男性が育児休業を取得することに対して、周りの理解が少ないのも現状です。なので、企業や行政の努力以上に、私たち個人の意識を変えていかないといけないなと思います。

また、世界経済フォーラムが二〇二二年に発表した「ジェンダーギャップ指数」で日本は一四六ヶ国中一一六位でした。あまりに低い順位に、私はとても驚きました。これは各国における男女格差を測ったもので、男女平等の社会が日本ではまだまだ実現していないことがわかります。先進国の中で最低レベルで、韓国や中国のアジア諸国よりも低い結果です。日本にとって、これから重点的に取り組んでいかなければいけない大きな課題ということが、この結果からもわかると思います。

これから私はたくさん勉強し、しっかり働いて、自分の力で生活していきたいと思っています。

★ 部活動や学校外活動 卓球部・生徒会

★ 好きな科目 理科

★ 好きなことや好きなもの 卓球・読書

★ 将来の夢 人を笑顔にする仕事がしたいです

その中で、結婚をしたり、子供が生まれたりする可能性もあります。私はその時に、仕事を辞めたくないなと思います。今の社会では、女性が仕事が好きでやりがいがあっても、辞めていく人がまだまだいます。一方で、ほとんどの男性は仕事を続けることが出来ています。どこかに不公平さを感じます。

私はまだ将来の夢は決まっていますが、母は私に、「手に職をつけなさい。」「結婚しても続けられる仕事を選びなさい。」とばかり言います。これは私が男子だったら、言われることの無い言葉なのかなと思います。もしかしたら、母は結婚で一度仕事を辞めたことを後悔しているのかもしれない。そして、私に同じ道を選ばせたくないと言ってきているのかもしれない。けれど、それだけを一番に考えて将来の道を決めるのは何か違うと思います。

結婚した後、女性も男性も働く、女性が働き男性は家事をする、男性が働き女性が家事をする。色々な形があっていいと思います。しかし、仕事を頑張りたい人が、もっと仕事を続けやすい環境になってほしいです。そして、何らかの事情で一度仕事を辞めた後でも、また自由に仕事を選ぶことができ、もっと色々な形の働き方ができるようになっていくといいなと考えます。結婚する人もしない人も、子供がいる人もいない人も、性別に関係なく、その人らしく幸せに生きることができる、多様性の認められる社会になってほしい、それが今私の心からのメッセージです。





優良賞 いじめについて

鈴鹿市立大木中学校 1年

加藤 涼

「いじめをしてはいけない。」おそらくすべての人が知っていることである。だが知っているだけでいじめにつながるようなことを全くしないということは難しいと思った。だからいじめにつながらないようにするためにはどうすれば良いのかを考えた。

まず第一は、自分の行動を見直すということが大切だと思った。たとえば、無視や暴力などは周りから見てもすぐにいじめだとわかる。しかし、からかいや煽りなどは遊びだと思ってしてしまう人が多いと思う。それを見ている人も遊んでいるだけだと思い止めることをしないだろう。だがさわれている人はどうだろうか。もしかしたら笑っているかもしれない。しかしそれは、本当は傷ついているということを隠しているのではないか。このように、相手のことをよく考えて自分自身の行動を見直してみるということが必要だ。

第二は、言葉はよく考えてから発するということが大切だと思った。なぜかという、学校で「殺すぞ。」や「死ね。」などの言葉をよくきくからだ。言葉は、人を簡単に傷つけてしまえる。また、放った言葉はなかったことにはできず相手の心を傷つけることになるかもしれない。なのに、わざわざ人を傷つけるような言葉を言う人がいるということが許せない。私は、「死ね。」と言われても対抗して言い返さず、また、重く受け止めず、笑って流すようにしている。そうすることで相手は私に何を言ってもつまらないと思って傷つく言葉を言ってこなくなるだろう。そして、私自身も人と話す際には頭の中で「この言葉は言ってもいい。」と「この言葉は言ってはいけない。」とよく考えて発するようにしている。こうすることで、人を傷つけてしまったり、「あの言葉を言わなければよかった。」と後悔しなくてすむようになるだろう。このように、頭の中でよく考えて言葉を発するということが必要だ。

第三は、感情のコントロールが大切だと思った。感情にはポジティブな感情とネガティブな感情がある。そして、そのネガティブな感情がいじめに大きく関わっていると思ったのである。人はその時の感情次第でとる行動が変わってくるだろう。まず、いじめにつながることをする人はどのような心理なのかを考えた。そうすれば、欲求不満でそれを解消するためにいじめをする。または、自分に自信がない人が自分の価値を上げるためにいじめをするという考えが頭に浮かんだ。しかし、人によって欲求がちがう。なので、一度自分の欲求はなにか、そして、その欲求は満たされているのかを考えてみる必要がある。また、自分の欲求が満たされていないと感じた際には、我慢をするのでも、立場の弱い人を傷つけて自分の価値を上げようとするのでもなく、その欲求

★ 部活動や学校外活動 美術部

★ 好きな科目 理科

★ 好きなことや好きなもの 読書

★ 将来の夢

を満たすための正しい行動を自分で考え、そして、その考えを自分のために行動に移すということが大切だ。このように、自分で自分のことをよく理解し、感情をコントロールすることが必要だ。

これら三つが、私のいじめにつながらないようにするための考えだ。いじめとは人を自殺などにも追い込むすごく不愉快であり、穢らわしいものである。だからこそ、この現代社会にあってはならないものであり、なくならなければならないものである。私も今回考えたことや思ったことをしっかりと心に留めておこうと思い、また、いじめをされている人をみかけたら話をきくなど私にできることなら力になりたいと思った。





優良賞

「おはよう」がかえってくる

伊賀市立霊峰中学校 3年

佐々木 凜

いつから「おはよう。」を言わなくなったのだろう。

いつから「おはよう。」と言えなくなったのだろう。

保育所の時も、小学校の時も「おはようございます。」と大きな声で言えたのに。

その「おはよう。」には「おはよう。」が返ってきたのに。

朝、起きて家族に会っても何も言わずに家を出たりすることもあるし、学校に着いても特定の人にしか挨拶出来なかったりする自分を見つけてしまった。したほうがいいのは分かっているけれど、なぜか言えない。

おはようのたった4文字だけなのに、言える相手を選んでしまう、小さな声でしか言えない。

母が独身の頃、就職してすぐの出来事を話してくれたのを思い出した。

職場の近くの道を歩いていたら、向こうから自転車に乗った中学生がやってきて、すれ違いざまに「ただいまかえりました!。」と、言ってきたそうだ。母は仕事で越してきたばかりで、その子の知り合いでもないし、自分の地元でそんなこと言うてくる中学生に会ったこともない。

突然の出来事に驚いた若き日の母だったが急いで自転車の後ろ姿に向かって「おかえりなさい。」と返したそうだ。そのときは本当に清々しい気持ちになったそうで、このエピソードは何回か耳にしている。

まだ慣れない土地での生活が始まったばかりの母はなんて素敵なおとこなんだと感じ、地球の人みんなが、家族みたいなおとこで、きっと道で会ったら挨拶をするのが普通なのだろう。だから面識のない自分にも普段通りに「おかえり。」と言ったのだろうと。

他所からきた自分を仲間入りさせてくれた大事な思い出らしい。

あの中学生の背中を追いかけた母の「おかえり。」の声がその中学生に届いているといいなと思った。

それから母は積極的に今でも、その道で自転車の中学生に会ったら「おかえりなさい。」と言うと言っていた。今の時代の中学生でも、つまり私と同世代だが「ただいま。」「こんにちは。」と返してくれると言っていた。

もちろん驚いて会釈だけの子もいるけれどきちんと反応してくれるらしい。

その母の話を思い出すと、時々交通安全指導で横断歩道で旗を持ってくれている顔見知りの人が声をかけてくれて、「おはようございます。」と言えてなかったなと反省している。ごめんなさい。

★ 部活動や学校外活動 バレーボール部

★ 好きな科目 保健体育・美術

★ 好きなことや好きなもの K-POP の音楽を聞くこと・料理・お菓子作り

★ 将来の夢 探し中です。

心の中では言っているのですが届いてないですね。

「おはよう。」「こんにちは。」挨拶ひとつで一日のスタートがはじまって、相手の心が明るくなったり、もちろん自分も心が晴れ晴れする気がする。

逆にされても、うっかり気づかなくて返せてなかったら嫌な気持ちにさせていたかもしれない。「ありがとう。」「どういたしまして。」「ごめんなさい。」「すみません。」コミュニケーションをとる言葉はたくさんある。

言葉を知っていても使わなかったら意味がない。心の中で大声で言っても、相手には伝わらない。以前互いに挨拶する地域では、犯罪件数が少ないと聞いたことがある。犯罪をおかそうとやってきても、地域の結びつきが強いので不審な人はすぐわかってしまうのだろう。

気持ちも明るくなって元気がでて明るくさせて、防犯もできるなんて「挨拶ってすごいな。」と思った。

しかし、大きな声で純真無垢な気持ちで挨拶するのはできない。声が出てこない。

当分の間は交通安全指導のみなさん、会釈だけでも許してもらえないだろうか。

いつかは小学校の時のように大きな声で挨拶できるようになりたいと思う。

「おはよう。」がかえってくるように。





優良賞

それでも私は挑戦し続けたい

紀宝町立矢渕中学校 3年

高須 咲南

「待っているだけでは夢は叶わない。年齢だけが過ぎていく。だから自分の手で、足で、夢に向かっていかなければならない。」

どこかで聞いた、こんな言葉。どこで聞いたかは鮮明には覚えていない、この言葉。だけど、鮮明に、心に、頭に刻まれたこの言葉に私はとても考えさせられた。努力をしていれば、夢を追い続けていれば、いつか夢は叶う。そう思っていた私にとって、この言葉はとてもシビアで、鋭く、現実を見せられるものだった。でも、確かなことだった。私の中には、この言葉を信じたくないという気持ちが大きい。でもそれと同時に、私は人生において大切なことを知れた気がした。

この言葉を知った日から、私は現実に向き合おうと頑張った。デザイナーになって、自分のブランドもつくりたいという夢を叶えるために一歩踏み出そうと心に決めた。でも、何をすればいいかがわからない。まだ中学生で、大人になるのは遠いことで、どこか他人事のように、私の心とからだは離れている。でも、私は中学校での二年間がとても早かったことを思い出した。大人になることが、そう遠くはないことに気がついた。私は思い切って創業セミナーに行ってみることにした。夢を叶えるヒントになることがあるかもしれない。そう思い、勇気をふり絞った。そこは大人ばかりで少し怖かった。でも後悔はしていない。なぜならこの経験を通して学んだことがあったから。それは、チャレンジすることの大切さ。勇気を出した先には、夢と現実が少しずつ繋がる姿が見えた。その時私は、あの言葉を深く理解できた気がした。何もせずに、ただただ願ってるだけでは何も起きないと思った。それからは、直接関わることなく、一歩踏み出してみたり、勇気を出してみたり、色々なことにチャレンジしてみた。私にはそのたび、夢が近づいていく姿が見えた。その中でも一番近づいたと感じた出来事があった。

私の憧れの人のブランドが募集詳細配信をしていた。対象は二十四歳から三十二歳の女性。私は募集対象外。それでも少しでも携わりたいと思い、機会がないかをきいてみることにした。それは、とても勇気が必要で、少しためらった。そんな時、あの言葉を思い出した。「待っているだけでは夢は叶わない。」「自分の手で、足で、夢に向かっていかなければならない。」そして私は一歩踏み出した。すると、「ダメもとでも応募してみてください。チャレンジすることに意味があります。」と、憧れの人からメッセージをもらった。私は、本当にその通りだと、勇気を出したことで知ることができた。

このような出来事から、私は人生において大切なことをたくさん知ることができた。全ては、あ

★ 部活動や学校外活動	剣道部
★ 好きな科目	国語
★ 好きなことや好きなもの	ファッション関係・読書
★ 将来の夢	ファッション関係の仕事

の言葉のおかげ。夢に向かって踏み出していこうと思わせてくれたあの言葉のおかげで、勇気を出すことの大切さや、チャレンジしてみることの大切さを知った。たくさんの人が「チャレンジすることが大切。」と言っているけど、正直、そんなこと私にはなかなかできないと思っていた。けれど、一度踏み出してみると案外そんなことないということをたくさんの人に伝えたい。私と同じように夢を追っているたくさんの人たちに、知ってもらいたい。私はまだまだ中学生で、人生の経験も少ない。そんな短い人生の中でも「やっぱり私にはできないかもしれない。」とってしまったことが幾度もあった。でも、自分自身の心に「夢が夢のままで終わってしまってもいいのか。」と問いただすと、自然とチャレンジする勇気が湧いてくる。私は、夢は諦めたくても一生諦めきれないものだと思う。必ず後悔するものだと思う。だから私は、待っているのではなく、自分の手で、足で、夢を掴みたい。そして、たくさんの人にも夢を掴んでほしい。中学生という夢を追う大切な時期に現実を見せられる言葉に出会った。最初は少し悲しかったけど、こんなにも世界がガラッと変わると思わなかった。一步踏み出すことが夢を掴むポイントで、待っているだけでは来てくれないんだということを、私は何度でも伝えたい。これからの長い人生の中で、挫折や辛いことがたくさんあると思う。でも私は、チャレンジし続け、怖がらずに立ち向かっていきたいと思っている。





優良賞 男女差別について

四日市市立西朝明中学校 3年

辻 明日薫

差別と聞いて、私が一番に思い出すのは男女の差別です。この男女の差別をなくす取り組みは、学校や職場などでいくつも行われています。

学校では、道徳の授業で女子がリーダーシップをとると男子に驚かれるのはなぜか、家庭の授業で女の人が家事をするのは当たり前だと思われるのかなどを話し合いました。父や母の職場でも、制度の見直しや、考え方を考える取り組みが行われているそうです。

そのような社会の流れの中で、私が最も感じられる場面は家の中です。

私の家は、母も父と同じように一日働いており、帰ってから食事の仕度や、後片付け、洗たく物の片付けや、お風呂の仕度などやることがたくさんあります。

母が働くようになってからは、私が母が帰る前に、これらをやっておくことが多く、母には、いつも助かると言われていました。それはとてもうれしいのですが、その一方で、私はたびたび不満に思うことがありました。なんで私だけが手伝うのか、兄がやってもいいのに、という思いがありました。

だから母に、なんで女だからって私がやらないといけないのかと、聞いたことがあります。その時母に、別に女の子だからやってもらっているんじゃないと言われました。私なら丁寧だし、頼んだことを確実にやってくれるからだと言っていました。もし同じことを兄に頼んだら、できていないことが多くて、結局自分がやらないといけなくなると考えていました。逆に兄には、高い所の作業や、重い物を動かす作業などをまかせています。

私は、母は「男」か「女」かではなく、その仕事に向いている「人」にお願いしているのだと思いました。

仕事でも同じようなことがあるそうです。男性でも、細かい作業が得意な人がいれば、女性でも人の前に立って話すことや、多くの人をまとめる力を持っている人もいます。

その「人」がそれぞれの得意分野で活躍することができれば、仕事はスムーズに進むと言っていました。

これは私の生活の中でも考えられることです。

以前、班に分かれて、ポスターやレポートを作成したことがありました。その時に、絵や字が上手な子、文章を考えることが得意な子、タブレットの操作が得意な子など、それぞれの得意なことを活かして作業をしました。すると、一人ではできないような作品が、できあがったということ

★ 部活動や学校外活動 テニス部

★ 好きな科目 理科

★ 好きなことや好きなもの

★ 将来の夢

がありました。

また、クラスの話し合いの中では男子と女子で意見が分かれるということもあります。そういう時も、もっと話す時間を増やしていけば、個人個人の意見があり、その中にも取り入れた方がよいものもきっと出てくると思います。

男女の差別をなくすというと、女性が男性に負けないように、同じように力を出せる場をつくることだと考えていました。しかしそれでは、「男性」対「女性」という感じになってしまいます。これは、本当の平等ではないと思います。

男性か女性かではなく、一人の「人」として、その人の個性や能力が十分に発揮されるような環境をつくっていくことが大切だと思います。

そして、その能力をお互いが認め合うことで、平等な社会が作られていくと私は思います。これからは、自分達がこのような社会を作っていけるようにしたいです。





優良賞

私たちにしかできないこと

朝日町立朝日中学校 3年

中村 梨乃

「人間は考える葦である」これは、フランスの哲学者ブレイズ・パスカルが残した言葉です。私はこの言葉がとても素晴らしいと思います。なぜなら、人間は自然界において、弱くてもろい存在ですが、その弱さを克服するために考える力を発揮してきたと思うからです。人間は考えることで、火や車や電気など、様々な発見や発明をしてきました。文化や芸術、科学を創造し、社会や歴史を変えてきました。また、存在意義や幸せを探究することで、夢や希望を持ち続けてきました。

私は国語の授業で先生から教えていただいたことがあります。先生はこうおっしゃいました。「自分の考えを持つことが大切です。自分の考えを持つことで、自分の意見や情報を発信できます。発信した情報はクラスメイトと共有され、クラス全体のレベルアップにつながります。」私はこの言葉に感銘を受けました。そして今まで以上に自分で考えた意見や情報を発信するように努めようと思いました。自分で考えることで、自分の視野や知識が広がり、周りの人ともコミュニケーションが円滑になると思います。また、考えを発信することで、クラス全体の学習意欲に刺激を与えることができると思います。

ところで、最近私は気になっていることがあります。それは、「対話型AIチャットサービス」という人工知能が人間の考える力に悪影響を与えているのではないかということです。「対話型AIチャットサービス」はインターネット上の情報を学習して文章を生成する人工知能です。私も試しに家のパソコンから使ってみました。驚くほど人間らしい文章が返ってきました。私は感心しましたが同時に不安になりました。

例えば、今書いているこの作文も「対話型AIチャットサービス」ならば自分で文章を考えなくても指一本の操作で簡単に作ってくれます。しかし、本当に「対話型AIチャットサービス」は私の代わりにパスカルの言葉を理解したり、授業中の実体験を取り入れたりした作文を作れるのでしょうか？ただインターネット上の情報を組み合わせて作るだけではないのでしょうか？そのような作文は本当に意味があるのでしょうか？内容が同じような作文ばかりでは、何の面白みも感動も無くなり、少年の主張などの作文コンクール自体が形骸化してしまう時代が来るのかもしれない。

「対話型AIチャットサービス」が作った情報を使用し続けることにより、自分で考える力や創造する力が衰えてしまい、人間らしさや個性を失い、さらには自分の声を奪われないか心配になります。

もし私たちが「対話型AIチャットサービス」に考えること全てを任せてしまったら、どうなるのでしょうか。私たちは自然の中で一番弱いただの葦になってしまわないかと恐怖さえ感じます。

★ 部活動や学校外活動	卓球部
★ 好きな科目	国語・社会・英語
★ 好きなことや好きなもの	ピアノ・読書・音楽鑑賞・映画鑑賞
★ 将来の夢	人の役に立つ仕事をする

これからも、「対話型AIチャットサービス」など、人工知能はどんどん進化していくでしょう。それはそれで素晴らしいことだと思います。しかし、付き合い方に気を付けなければ私たちは、思考力や創造力を奪われ、退化してしまうかもしれません。人工知能に依存せずに、自分の頭で考えることが大切だと思います。

私たちは、「対話型AIチャットサービス」を使わなくても、自分の考えで、素晴らしいものを創り出すことが出来ると思います。その力こそが、人間の思考力や創造力であり、人間の価値を高めていくと信じています。

私は考えることが大好きです。自分の考えを先生や友人に、さらには社会に発信し、情報共有して、自分の世界を広げたり、深めたりしていきたいです。また、自分の人生を楽しんだり、充実させたりして、自分が幸せな世界で生きていると実感したいです。私は、いえ、私たちは、いつまでも考える葦であり続けるべきなのです。

私は「対話型AIチャットサービス」に質問してみたいです。「あなたは生きていますか？」





優良賞

美しい私たちの日本語

尾鷲市立輪内中学校 3年

藤井 春奈

「私は日本語が大好きだ。」

なんて友達に言うと、「なんで?」「どこが?」と困惑されることが多々ある。それでも私は日本語が好きだ。美しい日本語を口にした時の、あの何とも言えない、流れる音と響きが好きで好きでしょうがない。新しい言葉と出会った時の胸の高鳴りが好きだ。これが毎日毎日味わえるなんて、本当に、日本に生まれて良かったと思う。

なぜ、私がこんなことを「中学生のメッセージ」として伝えようとしているのか。理由はひとつだ。特に若い人の間で、日本語が簡略化されている、と感じるからだ。嬉しい、悲しい、驚いた、から、「ヤバい」。相槌はとりあえず「それな!」。確かにとても便利な言葉だと思う。今、どんな気持ちなのか、文章にするのに手間がかかると思ったら、「ヤバい」と言っておけばなんとなく伝わるものだ。また、「それな」と相槌を打ってもらえたら、共感されたと思って嬉しくなる。ただ、私が思うのは、それだけでは少し寂しくはないか、ということだ。みんながそうやって同じような言葉を使うようになったら、良き日本語が失われていくのではないか。それはなんとも悲しい事態だ。では、どうしたら言葉を守っていけるのか、考えてみた。

まず、一番簡単にできることは、自分の話す言葉に注意を向けてみることだと思う。そして、自分の伝えたいことを、言葉に乗せて伝えられているか、確かめてみるのだ。例えば、始めに挙げた「ヤバい」という言葉。それを、「何があって、どう思ったのか。」という文章に置き換えてみるのはどうだろうか。小説の結末に驚いたのなら、「この小説、ラストがヤバかった。」ではなく、「この小説は、ラストの展開が驚きだった。」という風にだ。二つ目の文では特段難しい言葉を使っているわけではないが、一つ目より自分の心情が伝わりやすい。このように、日本語を丁寧に使うことで、自分の心の状態を自分の言葉で表現する面白さが味わえるようになると思う。最初は面倒に感じるかもしれない。でも、慣れれば案外楽しいものだ。言葉のレパートリーが増えていって、自分の思いをぴったりの言葉で表せると、日本語がさらに面白く感じられるようになる。何かと便利な言葉も良いが、せっかくなら日本語を自由に組み合わせて、自分だけの響きを持った言葉を作り出してみてもどうだろうか。それが相手に、自分の思った通りに伝わっても、思いもよらない伝わり方をしても、どちらでも良いのだと思う。そんな経験を何度もしていけば、だんだん自分の伝えたい微妙なニュアンスの違いを、言葉に映し出せるようになるだろう。私も今、その練習をしている最中だ。年を重ねても、きっと自分の気持ちを完璧に言葉に表すことはできないのだと思う。

★ 部活動や学校外活動 剣道部・書道塾

★ 好きな科目 国語

★ 好きなことや好きなもの 読書

★ 将来の夢 辞書編纂者

自分の心の中は自分でもよく分からないのだから、それは当たり前だ。しかし、私はその経験こそが大切だと考える。便利な言葉だけで済ませようとするのではなく、自分の言葉で表そうとすることが、日本の言葉を守っていくための第一歩だと思う。

言葉には魂がある。美しい言葉は、ひとを温かい気持ちにさせる。ときには、感動の涙を流させる。醜い言葉はひとを傷つけ、苦しめる。ときには、悲しみの涙を流させる。私たちが誇るべき文化である日本語を、私たちの手で守り、広げていくため、今一度、言葉の持つ力を見つめ直すべきではないか。美しい日本語の未来のために。





優良賞 わたしの考える防災

暁中学校 3年

村山 絢桜

日本はとても地震の多い国だ。日本周辺には四つのプレートがあり、このことが地震の多さに大きく関係しているといえる。

このごろ、マグニチュード四以上の地震が多発しておりテレビでも防災について沢山放送されている。だが、どこのチャンネルでも「学校の防災」については触れられていない。家での防災も大切だが、一日の三分の一を過ごす学生にとっては「学校での防災」と「家での防災」は同等に大切ではないだろうか。このことから私は、日本の学校の防災は日本におかれている状況に対し不十分だと考えた。

初めに、学校が行っている地震に対しての対応について考える。以前学校で昼休みに地震が起きたことがあった。私はその時二階の教室の自分の席で寝ていたのだが強い揺れでおもわず起きてしまった。周りの子に「大丈夫かな?」と聞いてみると「凄い揺れだったけれど放送はかからないから大丈夫だと思う。」と言ってくれた。

大半の学校は大きな地震が発生したとき生徒を避難させるように放送がかかる。そして生徒はその放送を聞き、その後に避難をする。これでは、生徒達の避難をするかしないかの判断が放送によって決められてしまう。しかし、もし放送がかけられない状況で地震が起きたらどうなるだろう。ほとんどの生徒が、揺れは大きくても放送はかからないので避難することを躊躇してしまうだろう。

そこで私はテレビと同じ方法を採用するのはどうだろうかと考えた。テレビには地震が起きたときにテロップが出る。あのテロップを出す基準は地元であれば震度一から、そうでなければ震度三からとなっている。このことから私は、テレビのテロップを見習い小さな揺れでも近くで起きた地震なら学校でも放送をかけるべきだと考えた。そうすることで全校生徒に地震が起きたのに放送がかからないのはおかしいという考えを持たせることができる。このことで生徒の一人一人が地震が起きたときに自分から行動ができるようになり、今までよりも素早く避難ができるようになると思った。

次に、私の通っている学校の校内で履いている靴について考える。私の学校では内履きにスリッパを使っている。スリッパは一般的に運動靴と呼ばれている靴とは違い足が覆われておらず、かかとにベルトもないのでとても脱げやすい。避難するための靴なのに脱げやすくては避難に向いていない。それに足を覆っていないという点は安全面においてもよくない。例えば、割れた窓ガラス

★ 部活動や学校外活動 合唱部

★ 好きな科目 数学

★ 好きなことや好きなもの 読書

★ 将来の夢 薬剤師

や蛍光灯などの重くはないが鋭いものはケガをしやすく足にカバーがないと危ない。

確かに避難するのには便利でも、学校で毎日使うとしたら運動靴のように足全体を包み込む靴はスリッパと比べて面倒だという気持ちもよくわかる。私も学校に遅刻しそうな場面に直面したら、うっかりかかとを踏んでしまいそうになるだろう。このように運動靴を雑に履きたくなる意見には反対できない。けれど地震が起きたとき、素早く避難するためにすぐに脱げてしまうスリッパよりも普段履くのは大変だが脱げにくく安全な運動靴にしたほうが良いと考える。

このように学校の防災は不十分だ。しかし私が意見を述べたように一人一人が発言して問題点を改善していけば、より良い防災に近づいていくだろうと私は考える。





優良賞

失われていく子どもたちの大切な遊び場

暁中学校 3年

山添 愛奈

昔の子どもたちはよく外で遊んでいたと聞きますが、今では外で遊ぶ子どもはあまり見られなくなっています。その理由の一つが身近に自由に遊べる場所が無くなってきているからだと考えられます。例えば、遊び場でもあり、交流する場でもある公園にも禁止事項が多く、近隣住民から苦情が寄せられることもあり、外では自由に遊ぶことができない世の中になってしまっていると感じます。

私が小学生のとき、自宅マンションの共用部の空きスペースで遊んでいたら、うるさいと苦情を受けました。近所の空きスペースに遊び場を移しましたが、また通りすがりの人に、ここでは遊んではいけないと注意されました。仕方なく車で公園に連れて行ってもらいましたが、その公園にも「ボール遊び禁止」「大声を出すのは禁止」などと書かれていました。自分たちのやりたい遊びを思いっきり楽しめる場所がないことに悲しくなりました。外で体を動かしながら掛け声をかけ合い、笑い合って遊ぶことはとても楽しいものでした。けれども、大人からその声を注意された瞬間、一瞬にして明るく楽しい気持ちはかき消され、暗く沈んだ悲しい気持ちだけが残りました。

友達と楽しく遊んでいると自然に出てしまう歓声や笑い声はいけないものなのでしょうか。子どもは弱い立場にあり、大人から注意されたら怖くて何も言えません。それから私は友達と外で遊ぶとき、また注意されるのではないかとびくびくして、外遊びを心から楽しめなくなりました。子どもたちが自由に遊べる場所を無くすことは、子どもたちから楽しみや喜びも奪うことにもなります。

確かに、近年は昔と比べて少子高齢化、都市化、治安の悪化などの環境の変化により、子どもの外遊びは危険性が増し、近隣への迷惑にもなりやすくなったことも理解できます。しかし、さまざまな外遊びを通して危険を回避する知恵をつけ、生きていくために必要な能力を身につけることができ強く成長できます。子どもの外遊びは成長に欠かせない大切なものであり、多くのメリットが得られます。

第一に、運動神経が発達し免疫力が上がることです。外遊びは全身を使うので筋力が鍛えられ呼吸器や臓器も強くなります。また、外にはウイルスや細菌がありますが、それに普段から触れることで免疫力を育むことができ、健康な体をつくることができます。

第二に、コミュニケーション能力が発達することです。外で遊ぶと学校で会う友達とは異なるさまざまな人に出会えます。他校の子や高齢者、小さな子や保護者など多くの人と触れ合い、子ども同士で工夫したりルールづくりをすることで、みんなで遊ぶ楽しさや協調の大切さを学び、自

★ 部活動や学校外活動	バレーボール部
★ 好きな科目	歴史
★ 好きなことや好きなもの	漫画・音楽鑑賞・ダンス
★ 将来の夢	人を喜ばせる仕事に就きたい

主性も生まれます。

私も外に出て遊ぶことによってたくさんの新しい友達ことができました。他校の子とはお互いの学校のことを教えあったり、お年寄りの人は昔の話や自然、地域のことを教えてくれました。新しい友達との出会い、さまざまな人たちとの触れあいを通じて、知らなかった景色を見られ世界が広がりました。

私が中学生になり、外で遊びたいと思わなくなった今思うと、友達と外で遊びたかった時期も、実際にわくわくした気持ちで外で遊べた時間も短いものでした。それでもその時間はとても貴重であり、かけがえのない経験をするのができ、子どもにとって大切なものを得られたと思います。

子どもが外で遊ぶには周囲の人の理解と見守りが必要不可欠です。最近は近隣への迷惑がからない方に重点がおかれているように感じます。もっと子どもの気持ちや意見を重視し、子どもたちにとってとても大切である本当に自由に遊べる「あそび場」のあり方を見直してもらいたいです。

今、外で遊んでいる子どもたちは貴重な時間を過ごし、かけがえのない経験をしています。昔、空き地や広場を自由に駆け回った頃の気持ちを思い出し、子どもたちの元気な遊び声を騒音ではなく、微笑ましく感じてもらえるような、温かく見守ってもらえるような、そんな地域、社会になってほしいです。

子どもたちがもっと自由に楽しく過ごすことができ、子どもたちの遊び声を歓迎してもらえる世の中になってほしいと願います。

子どもたちの健やかな成長のために。



審査委員の講評 (順不同・敬称略)

【審査委員長】伊藤 信成 (国立大学法人三重大学 教育学部長)



今年度の中学生のメッセージは昨年に続き対面での開催となりました。行動制限が解除され、新型コロナ蔓延前の状況で開催できたことを嬉しく思います。県内各地から選ばれた主張はどれも素晴らしく、審査には大変頭を悩ませましたが、中学生のみなさんの瑞々しい感性に触れたことは、私自身にとっても貴重な経験でした。本来であれば発表したみなさん個々に講評をするところではありますが、紙面の関係上、全体を通して感じたことを2つ述べたいと思います。

まず1つは、声を上げていくことの大切さです。多くの人前で発表をするのはとても緊張したことと思いますが、登壇者のみなさんは堂々と主張をしていました。みなさんのメッセージを聞いていると、当たり前ではあるのですが、中学生のみなさんが“中学生”という小さくくりではなく、一人ひとりがそれぞれの思いを抱いて日々の生活を送っているのだということを、改めて実感しました。登壇したみなさんが、緊張の中でも一歩踏み出して、自らの思いを発信したことによって、みなさんの思いとともに、同世代の中学生一人一人の心持ちにまで思いを馳せることができる機会となりました。同世代の仲間にも、勇気をもって声を上げていくことの重要性を伝えることができたのではないかと思います。

もう1つは、みなさんが取り上げたテーマが非常に多岐に渡ったことです。環境、挨拶、夢、言葉の乱れ、いじめ、ジェンダー平等、障害者支援など、多様な分野が取り上げられていました。生成系AIについても取り上げられていて、2023年を象徴すると感じました。中には書き難かったんじゃないかなと感じるテーマもありましたが、自分の思いを伝えるんだという意味を感じました。また、どのメッセージも、自分自身の経験からの問題提起でしたが、個人の範囲の問題で終わることなく、社会の問題として課題を発信するとともに、中学生なりのフレッシュな発想で解決にむけての提案も行っていました。自ら行動していく姿勢も随所に見受けられ、とても心強く思いました。

さて、今回の発表者14名の中から、最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞10名をそれぞれ選んでいただきました。先に述べた通り、みなさんの原稿はいずれ劣らぬ素晴らしいものでした。その中で、最優秀賞「祖父はつまらない人？」を発表された高田鈴奈さんの主張は、あることがきっかけで、それまで「つまらない人」と思っていたおじいさんが、社会や未来に対して先進的な考えを持っていることを知り、それまで表面的な面だけで「つまらない人」と判断していたことに気が付いたというものでした。高田さんの意識が変わる前の状況は、年配の方がいる家庭の多くで見られるものではないかと想像できますが、年配の方々も様々な思い・考えを持っているということに気づき、人生の先輩としてみることができるようになったことは素晴らしいと思います。また、その経験を個人の経験として終わらせるのではなく、世代間の問題として俯瞰した捉え方をし、メッセージとして発信した点が素晴らしいと感じました。

最後になりますが、新型コロナの行動制限は解除されたものの、開催にあたっては慎重な対応が必要だったことと思いますが、大会の開催に向けてご尽力いただきました関係者のみなさまに、厚く感謝申し上げます。特に大会運営に関わった中学生のみなさんの対応(受付・司会・実践発表等)は本当に素晴らしいものでした。拍手を送りたいと思います。

Dr. Shiro Kikuchi is a Professor of the Department of Chemistry at the University of Tokyo. He received his Ph.D. from the University of Tokyo in 1988 and worked as a postdoctoral fellow at the University of California, Berkeley. He returned to the University of Tokyo in 1991 and has been a professor since 1995. His research interests are in the synthesis of organic molecules and the development of new synthetic methods.

今回、私自身がとても励まされた発表がありました。夢の仕事に向かって一步踏み出した女の子。大人ばかりの創業セミナーに参加したり、24歳から32歳の女性を対象にした応募案件に中学生の自分が応募できないかと問い合わせたり。私はもはや夢見る年頃ではありませんが、それでもとにかく一步を踏み出してみよう。そんな勇気をもらいました。

A black and white portrait of Professor Toshiyuki Tanaka. He is an older man with short, light-colored hair, wearing glasses, a white collared shirt, and a dark suit jacket. He is looking directly at the camera with a slight smile. The background consists of vertical wooden slats.

結びに、発表された中学生、大会運営に参画いただいた市内中学生をはじめ、ご尽力を賜りました関係者の皆様方に心から感謝を申し上げます。

Dr. Shiro Kikuchi is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a white shirt, and a dark jacket. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is a light-colored wall with vertical lines.

みなさんのスピーチやデザイン画をはじめ、大会を支えてくれた全ての中学生の姿を通して、私たちに届けられたメッセージの中に、それらが息づいていることを、私ははっきりと感じました。

結びに、大会の開催や運営にご尽力いただいた全てみなさまに心から感謝申し上げます。

A black and white portrait of Dr. Shiro Kikuchi, a middle-aged man with a receding hairline, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is smiling slightly. In the background, a round clock is visible on the wall.

最後に、大会運営に携わっていただきましたすべての方々、参加された中学生の皆様にご心から感謝申し上げます。

【審査委員】岸田 諭祀（三重県PTA連合会 前副会長）



14名の中学生の皆さん。個性あふれる発表ありがとうございました。保護者として家庭や地域で関わっていると、中学生は「まだまだ可愛い」と思うことも多いのですが、今回の発表をみると、しっかりとしたメッセージを考え、堂々と語ることが出来ており、頼もしい成長の姿に感心しました。

そして、それぞれの身近な疑問に皆さんが気づき、この事を自分事としてとらえ深く考えていくことが、社会の問題としてのメッセージとなっているところに聞きごたえがあり、ハッとするような発表に聞き入ってしまいました。

「家庭教育」が「社会教育」につながっていることと同じように、「身近な出来事」は「社会の出来事」につながっています。社会で起きる“大きく思える出来事”は、自分の身の回りの“小さく思える出来事”から始まっている。中学生の皆さんの発表で、このことに改めて気づくことが出来ました。これからも気づく視点を大切にしながら、学校で地域で家庭で楽しんでいただければと思います。

最後となりますが、中学生スタッフの皆さん、実行委員会と財団を始めとするこの場を支えてくださった皆様方によって、素晴らしい大会となりましたことに対して心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

.....

【審査委員】山形 達哉（三重県私学協会〈皇學館中学校 教頭〉）



発表者のみなさん、素晴らしい発表を聞かせていただきありがとうございました。

本日発表のみなさん全員が自分の視点で様々な事象を捉え、その事象を自分事として考えた上で、その対応策や打開策を力強く提案することができていました。みなさんがこれから担う社会で生きるということは、この会に向けての取り組みそのものだと感じます。自分を見つめ、社会を見つめ、自らの意見を持つ。さらに、持つだけに留まらず、声にして発信する。そのような人が多ければ多いほど未来は明るいのだと思います。私を含め、当日会場に訪れていた方々は発表の2時間中ずっとみなさんの発表に聞き入っていました。しっかりと声が心に届くメッセージとなっていました。

最後に、今年度作文に取り組んでくれた県内8,191名の方も含め、みなさんが今後も様々な面で活躍されることを期待しています。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is a light-colored wall with vertical lines.

だきました。

A black and white portrait of Dr. Yoko Kato, a woman with short dark hair, wearing a dark blazer and a necklace. She is smiling slightly.

取り上げられたテーマは、多岐にわたる内容で自身の経験を踏まえながら新たな視点で問題提起し、自分事として解決していこうという強い思いが込められていました。壇上で堂々とメッセージを伝える皆さんの姿を拝見し、頼もしく感じました。

最後になりますが、発表された中学生、大会運営への協力や実践発表をしていただいた地元中学生、そして関係者の方々に心より感謝申し上げます。

【審査委員】水元 正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長）



中学生のメッセージを拝読、発表をお聴きし、これは、中学生にとって、これからの道標の「周到的準備」と感じられました。

最初、何かふあっとしたものが感じられそれがだんだんと現実的に受け取ることが出来とてもうれしく思います。

中学生が未来に向けて、自分の思いを文字にし、言葉で言い表す、今は小さな一歩であるかもしれないが、着実な一歩であるということです。自分の体験をもとにして日々の生活からの発表であるため、私たちに伝わる迫力が感じ取れとても良かったです。

中学生のメッセージ2023の発表会に地元の中学生の皆さん関係者の皆さん本当にご苦労様でした。ありがとうございました。感謝申し上げます。

ご協力いただいた審査委員の皆さま

審査委員長	伊藤 信成	国立大学法人三重大学 教育学部長
審査委員	間野 丈夫	三重テレビ放送株式会社 常務取締役
	小川 専哉	いなべ市教育委員会 教育長
	日置 幸嗣	東員町教育委員会 教育長
	上田 章善	三重県小中学校長会 副会長（鈴鹿市立平田野中学校 校長）
	岸田 諭祀	三重県 PTA 連合会 前副会長
	山形 達哉	三重県私学協会（皇學館中学校 教頭）
	本田 実	三重県教職員組合 中央執行副委員長
	西崎 水泉	三重県子ども・福祉部 次長
	水元 正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長



大会概要

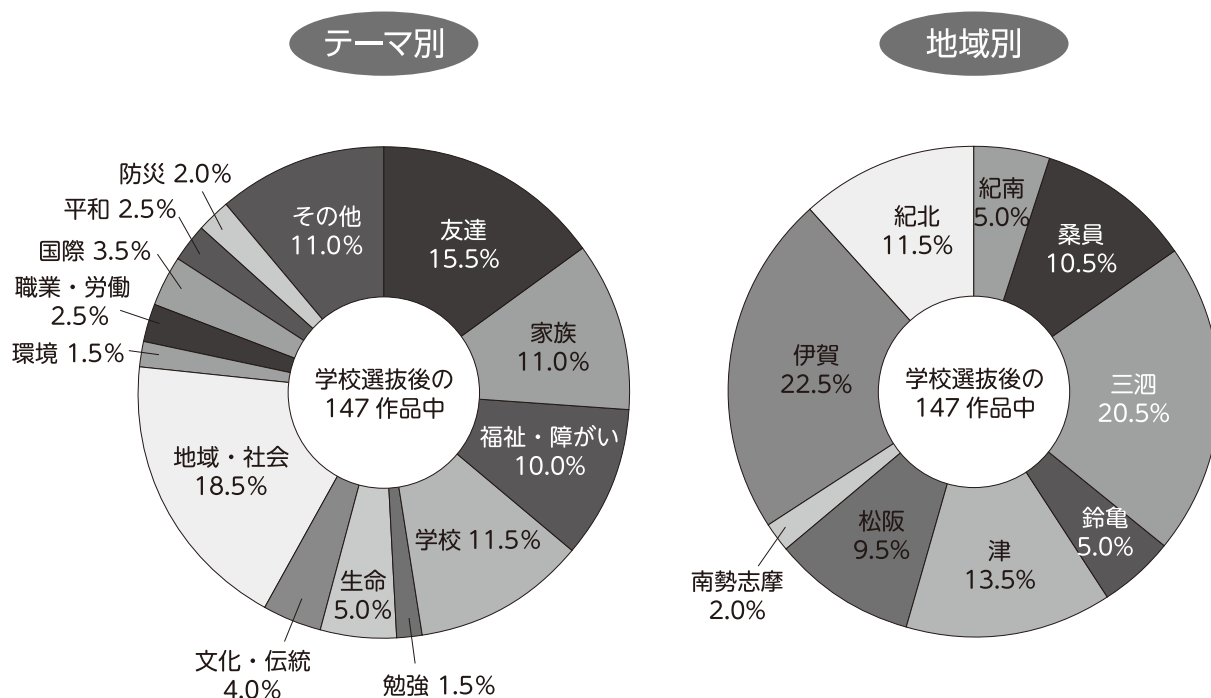
1 応募の状況

(1) 応募者数

地区名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
北勢	4,131	5,811	3,923	2,648	1,604	2,762
津	2,762	938	964	1,289	256	786
松阪	536	518	671	1,885	569	718
南勢志摩	601	123	101	86	75	61
伊賀	1,595	3,952	3,749	3,678	3,790	3,369
紀北	250	247	217	258	242	247
紀南	291	493	149	337	324	248
計	10,166	12,082	9,774	10,181	6,860	8,191

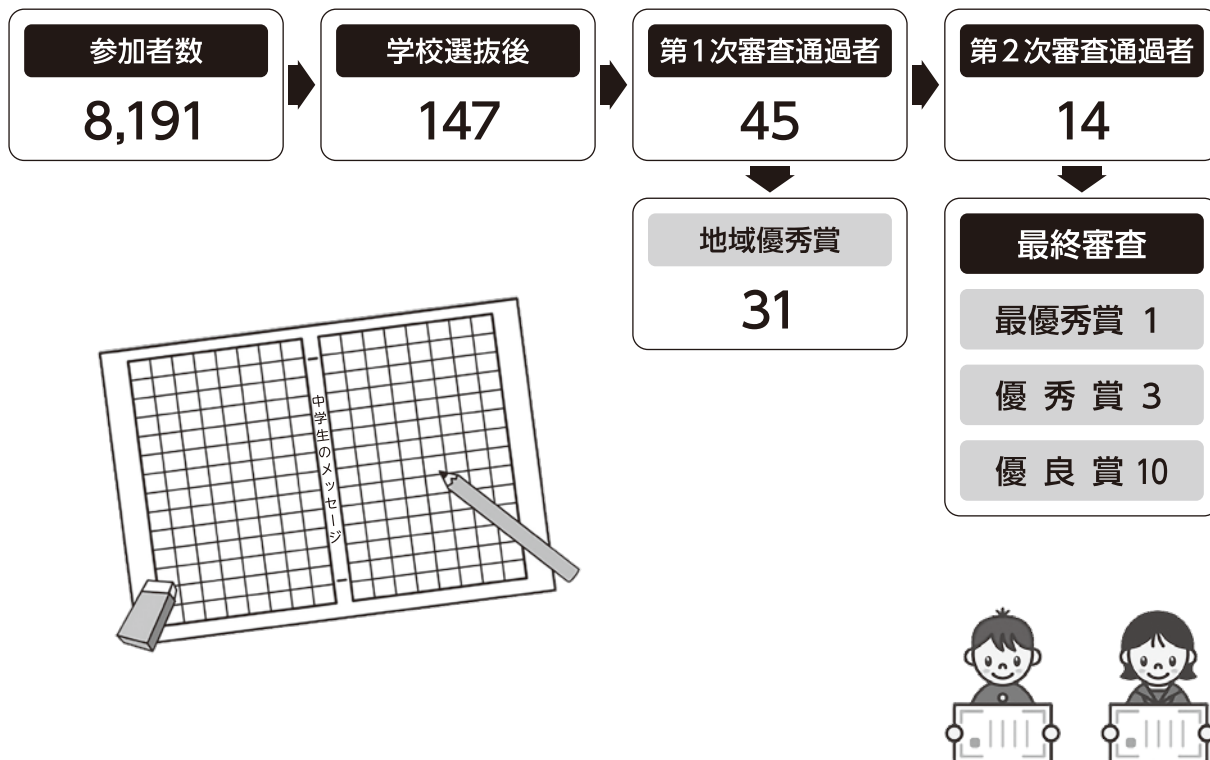
応募作品のテーマ・地域別の内訳

応募点数8,191の内、学校における選抜を受けて当財団に提出された147作品の内訳です。

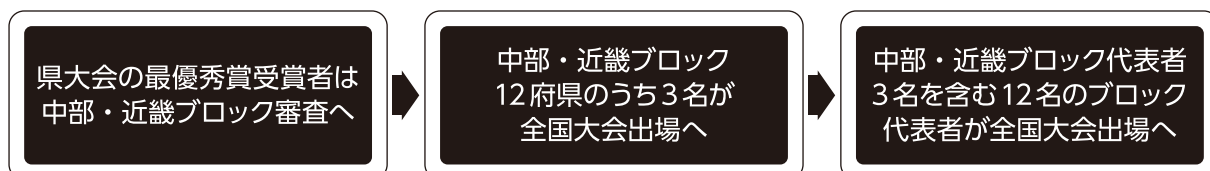


(2) 選考の過程

1. 県大会



2. 全国大会



2 地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
1	桑名市立正和中学校	3	中村 桜子	障害のある子への決めつけをなくすこと
2	いなべ市立大安中学校	2	出口 陽菜	明るい将来への可能性
3	木曽岬町立木曽岬中学校	3	坪田 栄舞	「意識」
4	四日市市立中部中学校	2	栃澤 ゆめ	すべての人への安全を
5	四日市市立笹川中学校	3	佐藤 七夕	生きづらい世の中を生きぬくために
6	四日市市立三重平中学校	3	ディアス 怜愛	目標を持つこと
7	四日市市立西朝明中学校	2	山本 康介	おじいちゃん
8	朝日町立朝日中学校	3	山口 紗奈	高齢化社会と私
9	鈴鹿市立大木中学校	3	藤井 瑠音	私の人生逆転劇
10	津市立美杉中学校	3	木村 咲也	差別を無くすために
11	セントヨゼフ女子学園中学校	3	磯部 萌々禾	学生の生活
12	セントヨゼフ女子学園中学校	3	板井 はる菜	三十二万五千分の一
13	セントヨゼフ女子学園中学校	3	若林 侑里	「人口減少とジェンダーレス」
14	松阪市立殿町中学校	3	安藤 滉太	真のバリアフリーを目指して
15	松阪市立殿町中学校	3	齋藤 夏希	見た事のない卒業生



No.	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
16	明和町立明和中学校	3	山中 暖騎	これからの社会で大切にしたいこと
17	皇學館中学校	1	中村 芽生	「世界中にある課題」
18	伊賀市立城東中学校	3	西出 羽菜	「人とのかかわり」
19	伊賀市立上野南中学校	1	中川 絢介	「迷惑行為」
20	伊賀市立島ヶ原中学校	1	松森 光俐	LGBT について考える
21	名張市立名張中学校	1	西岡 花佳	今、私が大切にしたいこと
22	名張市立赤目中学校	2	中井 菜湖	身近なもの
23	名張市立赤目中学校	3	谷岡 海凪	教科書の裏側 そしてその先へ
24	名張市立北中学校	3	中島 真白	働くということ、社会人になるということ
25	尾鷲市立輪内中学校	2	下地 もも	進化と共に
26	紀北町立紀北中学校	3	井谷 仁香奈	学ぶということ
27	紀北町立紀北中学校	3	寺浦 正晃	変わらないもの、形ないもの抱きしめて
28	紀北町立潮南中学校	3	北口 留名	「偏見」という言葉
29	紀北町立三船中学校	2	喜多 暦	共生できる未来
30	紀宝町立矢湊中学校	2	田尾 瑛太	僕の家族の現状



3 学校奨励賞受賞校一覧

No.	学 校 名	No.	学 校 名
1	桑名市立正和中学校	18	伊賀市立城東中学校
2	木曽岬町立木曽岬中学校	19	伊賀市立上野南中学校
3	四日市市立中部中学校	20	伊賀市立霊峰中学校
4	四日市市立富洲原中学校	21	伊賀市立島ヶ原中学校
5	四日市市立西笹川中学校	22	伊賀市立阿山中学校
6	四日市市立三重平中学校	23	伊賀市立大山田中学校
7	四日市市立西朝明中学校	24	伊賀市立青山中学校
8	鈴鹿中等教育学校	25	名張市立名張中学校
9	津市立橋南中学校	26	名張市立赤目中学校
10	津市立美杉中学校	27	名張市立北中学校
11	津市立みさとの丘学園	28	名張市立南中学校
12	松阪市立殿町中学校	29	尾鷲市立輪内中学校
13	多気町立勢和中学校	30	紀北町立赤羽中学校
14	多気町松阪市学校組合立多気中学校	31	紀北町立三船中学校
15	皇學館中学校	32	熊野市立入鹿中学校
16	伊賀市立崇広中学校	33	御浜町立御浜中学校
17	伊賀市立緑ヶ丘中学校	34	紀宝町立矢渕中学校

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上）が受賞されました。

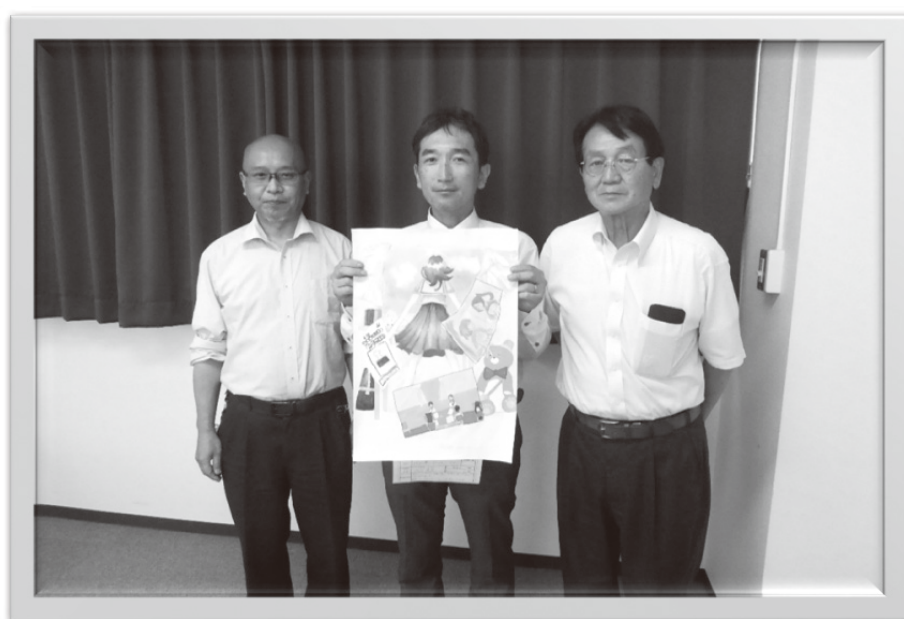


4 デザイン画受賞者一覧

賞	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
最優秀賞	桑名市立多度中学校	2	石川 美咲	まばゆい輝き～自分を信じて一歩ずつ～
		2	坂本 綾音	
		2	園田 志歩	
		2	渡辺 菜摘	
優 秀 賞	桑名市立光風中学校	3	萩原 柚月	色々で色々なダンスパーティー
優 秀 賞	桑名市立正和中学校	2	中山 エイサ	呼びかけ運動
優 秀 賞	桑名市立陵成中学校	2	宮島 汰成	あふれる想い



デザイン画審査会で入賞作品を選出



デザイン画最優秀賞決定！

大会メモリアル

北勢市民会館 さくらホール 2023.8.26

当日の大会会場



10:00 協力中学生・実行委員会が集合!



10:15 運営協力中学生全員集合



運営協力中学生による受付



運営協力中学生による案内

中学生の
コメント

実行委員の方がわかりやすい説明をしてくださったので、案内しやすかったです。



先生の
コメント

生徒たちが、笑顔で役目を果たせたこと何よりも嬉しく思います。

中学生の
コメント

受付の作業を体験してみて、人と対面して話すことの大切さを学べました。

11:00 発表者が事前説明を聞きました!



13:00 開会

運営協力中学生による司会



中学生の
コメント

少し緊張していましたが、周りの方のおかげで精一杯がんばれました。

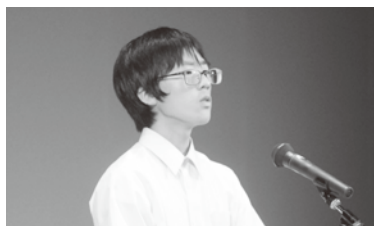
主催者からの大会挨拶



いなべ市長からの歓迎挨拶



13:20
いよいよ
14人の主張発表が
始まりました!!



14:55 実践発表が始まりました！



よさこい演舞（いなべ市立北勢中学校）



吹奏楽演奏（いなべ市立大安中学校吹奏楽部）

大人からの応援メッセージ展



三重県知事をはじめ、協賛企業・団体様から応援メッセージをいただきました。

地元桑名地区の中学生による デザイン画展

応募総数 36 点の中から選ばれた入賞作品 4 点 + 優秀作品 15 点を展示



デザイン画最優秀賞

「まばゆい輝き ～自分を信じて一歩ずつ～」

桑名市立多度中学校2年

石川美咲さん・坂本綾音さん・園田志歩さん・渡辺菜摘さんの4名グループによる作品がプログラムの表紙を飾りました。



厳正なる審査中



15:45 伊藤審査委員長による講評



15:35 表彰式 おめでとうございます!



運営協力中学生による表彰アシスタント

16:00 運営協力中学生の皆さんへ



杉山実行委員長から感謝状の贈呈

受賞者のコメント

緊張しましたが、自分の考えをたくさんの方に伝えられてよかったです。当日は、うまくいくことだけを考えて動作、気持ちを言葉にのせるように発表しました。

(いなべ市立藤原中学校 2年 高田 鈴奈さん)



【司会・受付・案内・表彰アシスタント】
いなべ市立員弁中学校・いなべ市立藤原中学校

【実践発表】
いなべ市立北勢中学校（よさこい演舞）
いなべ市立大安中学校吹奏楽部（吹奏楽演奏）

【デザイン画最優秀賞】
桑名市立多度中学校 2年
石川 美咲さん・坂本 綾音さん・園田 志歩さん・渡辺 菜摘さん

【デザイン画協力中学校】
桑名市立光風中学校・桑名市立陽和中学校
桑名市立正和中学校・桑名市立陵成中学校
桑名市立多度中学校・桑名市立長島中学校

来年度は、紀南地区（御浜町）で開催予定!!

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事、三重県議会議員、いなべ市長、協賛企業・団体様からあたたかい応援メッセージをいただきました。

明るい未来を担うみなさん
一人ひとりが主人公！

三重県知事 一見 勝之

子ども皆 大人になって
三重の春！

三重県議会議員 中森 博文

好きなことを伸ばして
得意分野で勝負！

いなべ市長 日沖 靖

自分のペースで自分らしく
その思い、きっと届く！

株式会社 アーステックTAGAWA
代表取締役 田川 永都

小さな一歩の積み重ねが
大きな夢につながる

伊賀ふるさと農業協同組合

成功するまであきらめない

イセット 株式会社
代表取締役社長 伊藤 尚貴

みなさんの実りある
未来を応援します

伊勢農業協同組合

未来は、美しい夢を
信じる人のためにあります

農事組合法人 うりぼう
代表理事 日柴喜 淳

失敗を恐れず、挑戦する事で
成長あり！

税理士法人 Ace
代表社員 出口 紀幸

大切なのは
チャレンジする気持ち！

有限会社 岡井博進堂
代表取締役 岡井 良樹

Opening minds,
Opening Futures!

岡三証券 株式会社
津支店長 稲垣 有治

人生の主演は自分
自分らしさを大切に！

笠間の里 せんだんネットワーク
会長 小川 英俊

夢に向かってはばたけ！

紙小津産業 株式会社

可能性は無限大!!
なんでも挑戦しよう!!

紀北信用金庫

行動がすべての成功への
基本的な鍵である

株式会社 ぎゅーとら
代表取締役社長 清水 秀隆

Also
challenge
everything!

グッディ(株式会社 玉城)
代表取締役社長 早川 賢

あなたの夢を大切に
自分を信じて一歩ずつ

桑名三重信用金庫

失敗を無駄にせず、
一歩ずつ前に進んでください。

桑名三重信用金庫 阿下喜支店

踏み出せば、その一足が道となる。
夢を持て！
無限の明日がそこにあるのだ！

建築設計事務所 アトリエ21
代表・一級建築士 二井 誉史

雨垂れ石を穿つ

コスモスベリーズ 松阪店

夢に向かってはばたく
あなたのつばさに。

株式会社 三十三銀行

未来の宝
君たちを応援します

有限会社 三友工業
代表取締役 後藤 賢二

自分を信じて
限界突破しよう！

JAバンク三重

花の季節は異なれども
いつか必ず花は咲きます

ジールケア 株式会社
代表取締役 若松 芳弘

意気揚々と進もう

有限会社 嶋屋
代表取締役社長 近藤 紀子

他と比べなくていい。
自分の言葉を信じて。

セイワシステムサービス 株式会社
代表取締役 伊藤 正人

Let's cherish
this moment now

Seko food
CEO Morinobu Seko

何事もチャレンジ！

株式会社 ぜにや
代表取締役社長 早川 賢

育てたい夢
応援します!!

多気郡農業協同組合
代表理事組合長 西井 正

友よ羽ばたけ大地をしっかりと踏み締めて
夢を持ち、希望を持ち
命を大切に、人を大切に!

竹輝銅庵 JSJT.CO.,LTD.
代表取締役 竹本 博志

後ろを振り向く必要なし
前に道はあるよ!!

株式会社 司
代表取締役 松村 亜矢子

未来は君たちの手の中

東邦液化ガス 株式会社

皆さんの想いが
これからの日本を作ります
自分を信じて未来へ!

豊田合成 株式会社
いなべ工場長 富田 伸二郎

やりたいことを
全力で!

有限会社 トータルインテリアタグチ
代表取締役社長 田口 秀明

自分を磨き続けよう
みなさんの輝かしい未来のために

ニッタ・デュボン 株式会社

次のステージへ、
描いた未来へ。

野村證券 株式会社 津支店
支店長 後藤 健太郎

今の体験や学びが
未来の宝物に!!

株式会社 農成會
代長 小川 太一

例えば1ミリでもいい、
一緒に前へ進もう!

パイロットインキ 株式会社
津工場長 服部 哲也

輝く時代は君たちで作れ
羽ばたけ未来人。

有限会社 ヒダカツ工業所

同じ未来と一緒に
見つめていきましょう!

株式会社 百五銀行

人は失敗を繰り返し強くなる!
迷うのは当たり前!!
成長している過程だと思えばいい!!

有限会社 プラスサポート

この縁を大切に

保険企画サポート24

Do your best !!

株式会社 松阪電子計算センター
代表取締役 宮原 義隆

夢を持ち、その夢に向かって努力する
がんばれ!!

有限会社 松本水道

夢を見るから、人生は輝く。

三重北農業協同組合

まわりはすべて応援団
夢に向かって突き進もう!

公益社団法人 三重県医師会

君たちは未来の宝
健やかに育て!

一般社団法人 三重県薬剤師会

一人ひとりの色で
未来を作ろう!

三重交通 株式会社

恐れずに進め!!

三重コンニクス 株式会社
代表取締役 吉田 治伸

前へ前へ!進む勇気が
あなたを強くする

南建設 有限会社
代表取締役 南 国広

Never give up !!

有限会社 山室石油
代表取締役社長 山本 清

夢にむかって進め!
輝かせ、未来!!

理想科学工業 株式会社
三重営業所長 赤松 義弘

明るく
元気に
前向きに

株式会社 リンクフジカワ
代表取締役 藤川 立也

敬称略、五十音順



協賛企業・団体紹介

株式会社アーステック TAGAWA

 JAいがふるさと

 ISET

 JA伊勢

 うりぼう

 税理士法人 Ace

 (有)岡井博進堂

 岡三証券
OKASAN SECURITIES

笠間の里せんだんネットワーク

 紙小津産業株式会社

 紀北信用金庫

共栄堂印刷株式会社

 ふれあい・たいせつに
きゅうとら

 桑名三重信用金庫

 グッディ
GOODAY

 建築事務所
アトリエ 21

 Berry's
コスモスベリーズ

 SANGO
人もの 価値を結ぶものづくり

 三十三銀行

有限会社三友工業

有限会社嶋屋

有限会社清水組

 JAバンク三重

ジールケア株式会社

セイワシステムサービス株式会社

 Dream Ocean

 食材工 房 zeniya

 育てたい夢、応援します
JA多気郡

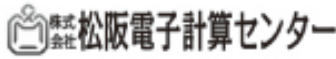
 情報システム株式会社

 TSUKASA 株式会社 司

東邦液化ガス株式会社

有限会社トータルインテリアタグチ

 TOYODA GOSEI

※五十音順

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。



中学生のメッセージ2023 (第45回少年の主張三重県大会) 作文募集要項

1 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として作文を募集します。

2 「中学生のメッセージ2023 (最終審査会)」開催期日・場所

期 日 令和5年8月26日(土)

場 所 北勢市民会館 さくらホール いなべ市北勢町阿下喜3083-1

3 主 催

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・桑員地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

4 共 催

三重県・三重県青少年育成市町民会議連合会

5 協 力

三重県内青少年育成市町民会議

6 後 援

三重県教育委員会・桑名市教育委員会・いなべ市教育委員会・木曽岬町教育委員会
東員町教育委員会・三重県私学協会・三重県小中学校長会・三重県PTA連合会
三重県教職員組合・NHK津放送局・三重テレビ放送株式会社・株式会社中日新聞社

7 応募について

(1) 応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、令和4年度在籍の3年生は応募できません。

(2) 応募内容

① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など

② 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど

③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

(3) 応募方法

① 1人1点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議(以下、市町民会議という)等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

② 原稿用紙の記入方法は以下のとおりです。

ア. A4版400字詰め原稿用紙〔別添（様式）〕3枚半以上4枚半以下で縦書きに清書してください。A4以外の原稿用紙や枚数不足、枚数超過については、審査対象外となります。

※大会での発表時間は4分半～5分半となります。

イ. 1行目に作文のタイトル、2行目に県名・学校名・学年、3行目に名前、4行目以降に本文を書いてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。

ウ. 本人直筆による原本（パソコン入力不可・コピー不可・但し障がい等による場合は可）（以下同じ）を提出してください。

エ. 原稿用紙にはHB以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。（審査のとき、コピーをするため判読不明な場合は審査できませんので、濃さについては厳守してください。）

オ. 原稿は、ホチキス止めをせずクリップ等で止めてください。

1行目	タイトル
2行目	三重県
3行目	○○立○○中学校
4行目	○年
本文	名前
～	～
～	～
3枚半以上	
～	
4枚半以下	
※枚数厳守でお願いします	

③ 応募作品一覧（別紙1）には、作文の基調となっている最も適当なテーマ1つを下記より選び記入してください。

基調テーマ分類

「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」、「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」、「防災」、その他（ ）

④ 各学校等において3点以内に選考し、応募作品一覧（別紙1）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

(4) 提出先・提出期限

- ・各中学校等は、令和5年6月2日（金）までに当該地域の市町民会議等に提出してください。市町民会議等は作品を取りまとめ、6月7日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
- ・市町民会議等の連絡先については、別紙2を参照してください。

(5) 審査基準

・論旨は以下のとおりです。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(6) 入賞の選考

① 第1次審査会

第1次審査は育成財団にて行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

② 第2次審査会

第2次審査は学識経験者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する第2次審査会において行い、最終審査会で発表する14人を選考します。14人へは7月上旬頃に連絡します。決定後、やむをえず出場できなくなった場合は、次点の方を繰り上げる場合があります。なお、14人以外の作品には地域優秀賞とします。

8 中学生のメッセージ2023(最終審査会)について

(1) 発表

・第2次審査会で選ばれた14人は「中学生のメッセージ2023」において、発表します。なお、発表では、パフォーマンス(写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等)を取り入れてもかまいません。その場合は、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 審査

・大会当日、学識経験者、教育関係者、報道関係者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する最終審査会で審査を行い、各賞を決定します。

(3) 審査基準

・論旨は第1次審査会と第2次審査会と同じです。
・論調・態度は以下のとおりです。

- ① 共感と感銘を与えていたか。
- ② 説得力のある話だったか。
- ③ 熱意と迫力があったか。
- ④ 落ち着いて話していたか。
- ⑤ 聴衆に感動を与えていたか。

(4) 表彰

- ① 「最優秀賞」(1人)、「優秀賞」(3人)、「優良賞」(10人)を決定し、賞状と副賞を贈呈します。
- ② 「地域優秀賞」には、賞状と副賞を贈呈します。
- ③ 積極的に応募に取り組んでいただいた学校(全校生徒の50%以上とする)に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- ④ 作品応募者全員に参加賞を贈呈します。

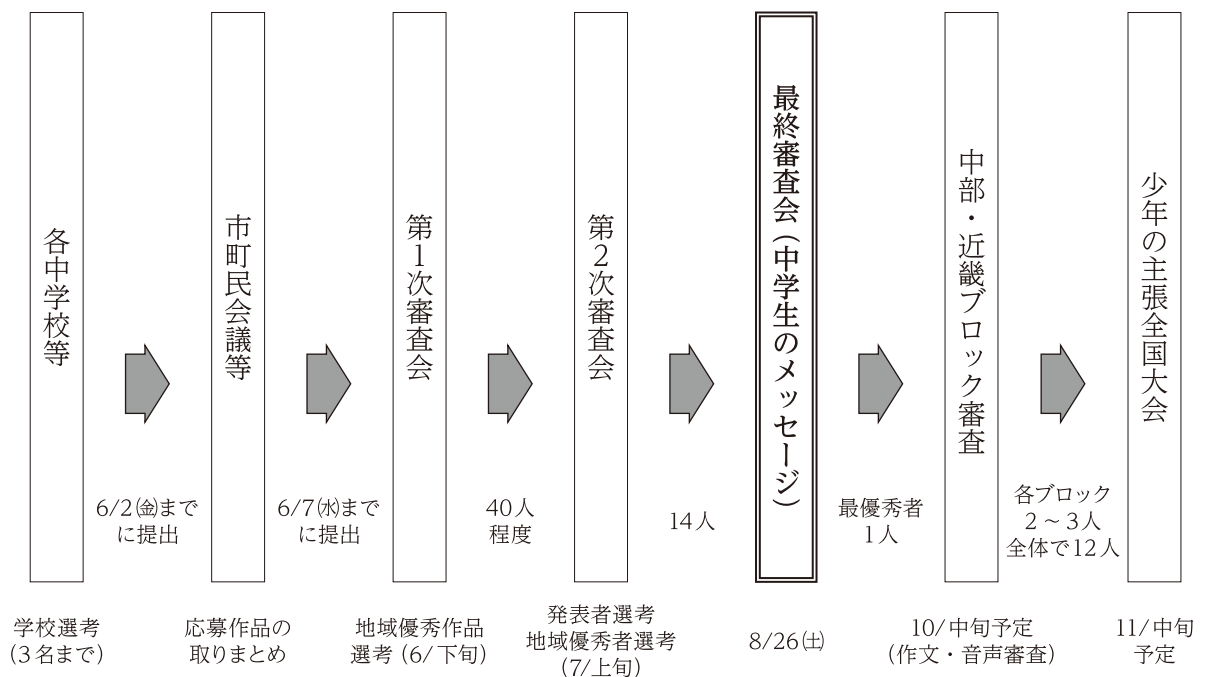
9 「少年の主張全国大会」への推薦

独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として最優秀者を推薦します。中部・近畿ブロック審査（作文・音声審査）でブロック代表者（各ブロック2～3人）に選ばれた場合は、11月中旬に東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表します。

10 その他

- (1) 応募作品（原本）の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 「中学生のメッセージ2023」開催前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。また、「中学生のメッセージ2023」後、結果を発表します。最優秀賞については、作品を掲載します。
- (3) 令和6年1月頃発表報告集を作成します。その中で掲載した作品及び写真については、ホームページ、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

11 参考：応募から発表までの流れ



問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL：0598-23-7735 FAX：0598-23-7792
E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

私が歩む夢への道

鳥取県 米子市立東山中学校 3年

矢曳 未来

私は障がいを持っている障がい者だ。生まれつきではなく、6年前に交通事故に遭ったことで後遺症が残ってしまったのだ。事故後のショックで歩けなくなった。記憶力が低下した。集中力が続かなくなり、些細なことで疲れて怒りっぽくなった。私はその後遺症を負ったことで、できないことが増えた。生活に関する不自由、勉強に関する不自由、その他色々なことで前の自分のほうが良かったと思う。最近は怒りの気持ちより、悲しみの気持ちが増えたように思う。

私には2つ上の姉がいる。私は今、中学校3年生だから、高校進学を考えたときに真っ先に頭に浮かんだのは姉だった。姉と同じ高校に行きたいと思った。けれど、それはとても難しい選択だと知っていた。私には障がいがあり、姉とは違うからだ。障がいを負ったことで、勉強に集中して取り組むことが難しくなり、できることよりできないことが増えた私に高校進学なんてできるだろうか考えた。今は自分の体の状態が少しずつわかってきたからこそ言えることだが、私には普通校進学は難しいのだろうと考えている。けれど、前は変わった自分を受け入れたくなかった。やれば私はできる。元のように戻れると考えていた。そう思って中学校に通ってきたが、今となってはそれも難しいということを知った。大きくなるにつれ、自分の体がわかってきたからだ。自分を知るというのは、辛いことなのかもしれない。私は、そのことを理解したときから、なんだか体の力が抜けて悲しくなった。私は、もしかしたら小学校から中学校に上がるとき、事故に遭う前の自分に戻りたくて、姉と同じ東山中学校を選んだのかもしれない。

そんな理由で選んだ中学校だけど私は今、その選択をして良かった、幸せだと思う。なぜなら中学校に通っていると、先生たちが私を本当に大切にしてくれているということがわかるからだ。それは、私が今、何よりも欲している気持ちだ。また、中学校に通うことで、同級生と一緒に勉強をすることができた。勉強だけではなく、色々なことに挑戦させてもらえた。委員会活動や応援団に参加することができた。そしてこの3年間を通して、私は全てが全て融通が効くわけではないということも知ることができた。

私は大人になったら、支援学校や支援学級の教師になりたい。中学校の先生達が私を大切にしてくれているように、私も教師になったら、支援学校や支援学級の子供達を大切にしたい。生まれつきの障がいがあったり、体が不自由で普通校には通えなかったりする子供達に「あなた達には居場所がある、一人ではない」ということを知ってもらいたい。そのために私は自分を見つめ、

自分にできることを探していきたい。だから私は、高校は養護学校に行きたい。養護学校で自分の可能性を見つけ、自分にできること、誰かの役に立てることを探していきたい。

私は最初からこのような考えを持っていたわけではない。最近になってやっと「できない自分」を受け入れられるようになってきたのだ。小さい頃から頑固で、これだと決めれば、周りの人の言うことなんて聞かなかった。だから事故に遭って同年代の人達より、できないことが増えたということが、ものすごくコンプレックスだった。

けれど、もうそれは過去の話だ。今の私はこうなのだから仕方がない。この考えは、自分はできないと諦めたのではなく、自分を認めたのだ。私は、私なりの道を歩むことを願う。私は自分の歩幅でゆっくりゆっくり「私の夢」を叶えようと思う。目的地へ時間をかけて進んでゆくカタツムリのように。私の夢はどこまでも続いていく。



中学生のメッセージ2023
(第45回少年の主張三重県大会)

発表報告集
令和6年1月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054
三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL 0598-23-7735
FAX 0598-23-7792
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

中学生のメッセージ2023 デザイン画入賞作品紹介

地元桑員地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、デザイン画展を開催しました。



デザイン画優秀賞：「色々で色々なダンスパーティー」
桑名市立光風中学校 3年 萩原 柚月さん



大会当日の展示の様子



入 賞 作 品



デザイン画優秀賞：「呼びかけ運動」
桑名市立正和中学校 2年 中山 エイサさん



デザイン画優秀賞：「あふれる想い」
桑名市立陵成中学校 2年 宮島 汰成さん